

SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST. (2015) 90 (4) August 2015

GSJ コミュニケーションズ

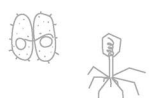
PROCEEDINGS OF THE SOCIETY

GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

日本遺伝学会

<http://gsj3.jp>

	目次	頁
	日本遺伝学会第88回大会へのお誘い 桂 勲	3
	日本遺伝学会第88回大会のご案内	4
	お知らせ	4
	惜別 Mary Frances Lyon 博士 高木信夫	5
	総会次第	7
	1) 会員数	7
	2) 2015年度役員名簿	8
	3) 2014年度決算報告書（単年度）	8
	4) 2015年度中間報告（2015年 6 月30日現在）	9
	5) 2016年度予算案	10
	6) 2015年度日本遺伝学会本原賞・奨励賞	10
	7) 協力委員会	10
	8) 学会推薦学術賞・研究助成の年間スケジュール	11
	9) 開催地一覧	12
	仙台大会の様子	13
	2015年度ナイトゼミナールの報告	14
	日本遺伝学会第87回大会 収支報告書	17
	日本遺伝学会第87回大会を終えて 西尾 剛	18
	日本遺伝学会第87回大会総会議事録	19
	2015年度日本遺伝学会第2回幹事会・評議員会議事録	20
	2015年度日本遺伝学会編集委員・編集顧問合同会議事概要	23
	2015年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書	27
	● 本 会 記 事 ●	
	会員異動	29

日本遺伝学会第88回大会へのお誘い

日本遺伝学会第88回大会 大会委員長 桂 勲
(国立遺伝学研究所)

日本遺伝学会第88回大会を、2016年9月7日（水）から9日（金）まで、日本大学国際関係学部三島駅北口校舎（静岡県三島市）において開催することになりました。現在、学会本部の支援のもと、大会開催に向けて準備を進めています。

遺伝学会のこれまでの伝統を守り、本大会も一般講演は口頭発表といたします。また、例年通り、シンポジウムとワークショップの準備を進めています。遺伝学の諸分野をバランス良くカバーすることが出来るよう、シンポジウム及びワークショップのテーマを会員より広く募集いたしますので、奮ってご応募下さい。遺伝学会の方針に従い、少しずつ国際化を進めることも決まっています。皆様にとって、本大会が最新の成果を発表し、最先端の講演を聞き、真剣な討論を行い、学問を語る友達を作るために最適な場となるよう、努力したいと思います。

大会翌日の9月10日（土）には、遺伝学に対する市民の理解を深めていただくために、公開市民講座「生き物の多様性の謎を遺伝子から読み解く」を実施します。第一線の遺伝学者による講演を行い、中学生、高校生、大学生、高校教員を含む一般市民に遺伝学の魅力と生物多様性の重要性を伝えることを目指しています。

三島は東京から新幹線で1時間、大会会場は改札口を出て目の前にあり、同じ建物の最上階に食堂もあるという便利なところです。お天気が良ければ、大会中に雄大な富士山の姿を楽しんでいただけたと思います。また、これを機会に、富士の伏流水が流れる歴史と文学の街、三島の魅力を知っていただくのも良いかもしれません。ぜひ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

なお、今後、大会ホームページ（<http://gsj3.jp/taikai/88taikai/>）で最新の情報を順次掲載いたしますのでご覧ください。

日本遺伝学会 第88回大会のご案内

日 時 2016年 9 月 7 日(水)～ 9 日(金)

場 所 日本大学国際関係学部三島駅北口校舎

大会委員長 桂 勲 (国立遺伝学研究所)

皆様のご参加をスタッフ一同、心よりお待ちしております。

お知らせ

佐々木裕之会員

(九州大学生体防御医学研究所所長) が
2015年度秋の紫綬褒章を
受章しました。



Mary Frances Lyon 博士 (1925–2014)

北海道大学名誉教授 高木信夫

昨年(2014)の12月25日、本学会名誉会員 Mary Frances Lyon 博士が89歳の生涯を閉じられました。やや遅きに失した感がありますがここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は哺乳動物遺伝学分野で50年以上に渡って指導的立場にありました。これはマウス遺伝学の知識が急速に拡大し、それがヒトの遺伝を理解するために不可欠との認識が進んだ時期に相当します。Lyon 先生はこの進歩を推進した中心人物であり、確固たる研究基盤の構築に精力を注がれました。

広範囲にわたる先生の業績全てを簡潔に紹介することは困難ですが、Lyon 先生と言えばまず思い起されるのが雌胚の発生初期に起きるランダムなX染色体不活性化現象 (Lyonization) です。1961年に発表された論文は Nature の1ページに満たない短いものでしたが、深い知識と洞察に基づいた仮説が簡潔・明快に提示されており、科学論文の模範と言っても過言ではありません。その後の検証から、X染色体不活性化は有胎盤類特有の遺伝子量補正機構であると認められましたが、ランダムに不活性Xが決まるのは真獣類のみで、有袋類では父由来Xが選択的に不活性化されることが判明しました。原仮説で訂正を要するのがこの一点しかないのは、深い洞察力の賜物と感心するばかりです。Lyonization の発見により Duchenne 型筋萎縮症や血友病の様なX連鎖突然変異遺伝子を持つ男性が重い症状を示すのになぜ女性は健康なのか、雌の三毛猫は珍し



(Copyright MRC Harwell)

くないのにどうして雄は極端に少ないのかなど多くの疑問が解明されました。論文発表から

30年後、Xist 遺伝子が発見され、しかもノンコーディング XistRNA はX染色体不活性化のマスタースイッチであることが判明しました。これを機に出現したのが長いノンコーディング RNA による遺伝子発現制御という新たな分野で、Lyon 説には未だに研究の発展を促す強い力が秘められていることを示しています。

Lyon 先生は1943年、まだ女性の入学が正式には認められていなかったケンブリッジ大学で動物学を学び、修了後

PhD を目指して統計学で有名な R. A. Fisher 教授のもとでマウス遺伝学の研究を始めたそうです。ところが先生は突然変異が胚発生にどのように影響を及ぼすかに強い興味を持っていたため、組織学的な研究がやりやすいエジンバラ大学の Institute of Animal Genetics に移り1950年学位を取得されます。時代の要請によってエジンバラ大学では「放射線による遺伝的障害」の研究が始まり、先生はポスドクとしてこのプロジェクトに参加します。しかし、先生が所属するマウスグループは1955年広い飼育スペースを求めてオクスフォード近郊 Harwell の MRC Radiobiological Research Unit に移動します。

Lyon 先生は以後ここで研究を続け、1962年から1986年までの24年間は Genetics Division の長を務められました。公式の引退は1990年とされていますが、2012年までは研究を続けられていたそうです。先生は放射線や突然変異原処理

により多くの新しい突然変異を作り出し、胚発生に及ぼす遺伝子の役割を解析しただけでなく、転座、逆位など染色体異常を持つマウス系統も多数育成されました。研究の進行によって増加する一方のこれら貴重なリソースの効率的な保存には特に心を砕かれ、胚の凍結保存法の開発に努力されました。

多忙な研究生活にもかかわらず先生は1956年から1970年にかけて非公式な情報誌 Mouse News Letter の編集長をつとめ、新しい系統、突然変異、リンケージグループなどマウス遺伝学に関する情報を世界の研究仲間に広く周知させる努力をされました。1958年には Committee for Standardized Genetic Nomenclature for Mice の委員となり、遺伝子、突然変異、多型、染色体異常、マウス系統などの命名法を統一し混乱を避ける努力をしておられます。1975年から15年間は委員長を務められ、インターネット時代以前のマウス遺伝学者必帯であった Margaret Green 博士の編集になる Genetic Variants and Strains of the Laboratory Mouse を1981年と1996年の二度にわたり大改訂・増補するという難事業を成し遂げられました。

Lyon 先生は1973年にロンドン王立協会会員、

1979年には米国科学アカデミーの外国人会員に推薦されています。王立協会メダルや Wolf 賞を含め多くの賞も授与されています。しかし、先生の功績を今後永く伝えることになるのは2004年に開設されたマウス遺伝資源の国際拠点 Mary Lyon Centre と2014年英国遺伝学会が創設した Mary Lyon Medal ではないでしょうか。

このようにマウス遺伝学の確立と発展に生涯を捧げられた先生は外国研究者にも極めて寛大でした。私事にわたりますが、先生は Cattanaach 転座マウス分与という私の厚かましい願いを叶え、夢に過ぎなかった種類の実験の実現に道を拓いて下さいました。その後も Harwell 産の X 0 系統、Searle 転座、T (X; 7) 37H 転座、In (X) 1 H などは私たちの研究で主役を演じ続けてくれました。小柄で物静か、暖かくて威厳のある Lyon 先生に最後にお会いしたのは2011年 Lyonization 発見50年を記念する第3回 X-inactivation Conference の昼食会でした。パーキンソン病のため車椅子で参加された先生は引っ張り風の忙しさでしたので、これまでのご支援への感謝を伝えきれなかったのが未だに心残りです。



日本遺伝学会第87回大会総会

日 時 2015年9月24日（木） 15時15分～16時15分

場 所 東北大学川内北キャンパス マルチメディア棟2階 206

総会次第

1	大会委員長挨拶	委員長	西尾 剛
2	日本遺伝学会会長挨拶並びに報告	会長	遠藤 隆
3	報告		
a	幹事報告	国内庶務幹事	小林 武彦 野々村賢一
		渉外庶務幹事	岩崎 博史 菱田 卓
		会計幹事	真木 寿治
		編集幹事	館田 英典
		企画・集会幹事	遠藤 俊徳 中別府雄作
		将来計画幹事	榊屋 啓志 杉本 道彦
		法人化担当	山本 博章
		男女共同参画推進担当	篠原 美紀 荒木 喜美
		広報担当, ホームページ編集	那須田周平 関根 靖彦
		遺伝学普及・教育担当	池村 淑道 平田たつみ
		その他	
b	学会賞選考委員会報告	委員長	遠藤 隆
c	生物科学学会連合報告	委員	菱田 卓
d	その他		
4	議事		
a	2014年度決算	会計幹事	真木 寿治
		会計監査	池尾 一穂
b	2016年度予算案	会計幹事	真木 寿治
c	第89回大会について	企画・集会幹事	遠藤 俊徳
d	その他		
5	次期（第88回）大会委員長挨拶	第88回大会委員長	桂 勲
	日本遺伝学会木原賞・奨励賞授与式	会長	遠藤 隆

1) 会員数（2015年8月1日現在）

普 通 会 員	787 名 (内学生会員 190 名)
外 国 会 員	4 名
機 関 会 員	37 件
賛 助 会 員	2 件
名 誉 会 員	国内 16 名 外国 7 名
計	853 名

2) 2015年度役員名簿

会 長	遠 藤 隆				
評議員					
全国区	荒木 弘之	五條堀 孝	木下 哲	倉田 のり	松浦 悦子
	佐渡 敬	斎藤 成也	颯田 葉子	高橋 文	田村浩一郎
北海道地区	金澤 章	黒岩 麻里			
東北地区	山元 大輔	渡辺 正夫			
関東地区	阿部 訓也	河村 正二			
東京地区	栗崎 健	田嶋 文生			
中部地区	北野 潤	野澤 昌文			
関西地区	菅澤 薫	高野 敏行			
中国・四国地区	阿保 達彦	杳掛 和弘			
九州地区	一柳 健司	楠見 淳子			
幹 事					
国内庶務幹事	小林 武彦	野々村賢一			
渉外庶務幹事	岩崎 博史	菱田 卓			
会計幹事	真木 寿治				
編集幹事	館田 英典				
企画・集会幹事	遠藤 俊徳	中別府雄作			
法人化	山本 博章				
将来計画幹事	榊屋 啓志	杉本 道彦			
男女共同参画推進担当	篠原 美紀	荒木 喜美			
広報担当，ホームページ編集	那須田周平	関根 靖彦			
遺伝学普及・教育担当	池村 淑道	平田たつみ			
会計監査	池尾 一穂	松岡 聡			
第87回大会委員長	西尾 剛				
学会賞選考委員会（2015）					
委員長	遠藤 隆				
委 員	荒木 弘之	五條堀 孝	倉田 のり	森 郁恵	城石 俊彦
	高畑 尚之				
研究助成金等推薦調査委員会（2015）					
委員長	遠藤 隆				
委 員	荒木 弘之	木下 哲	倉田 のり	松浦 悦子	佐渡 敬
	斎藤 成也	颯田 葉子	田嶋 文生	高橋 文	高野 敏行

3) 2014年度決算報告書（単年度）

A 収 入		B 支 出	
(単位 円)		(単位 円)	
摘 要	決 算	摘 要	決 算
1 学 会 費	6,781,000	1 事 業 費	6,549,785
2 賛助会費	100,000	雑誌製作費	4,476,785
3 科学研究費補助金	3,900,000	大会補助費	1,000,000
4 事業収入	2,454,940	遺伝学談話会補助費	290,000
雑誌売上	900,000	大会学生旅費補助	658,000
別刷売上	1,554,100	協力委員会分担金	125,000
利 息	840	2 評議委員会／幹事会費	548,740
5 木原基金	200,000	3 事 務 費	5,682,866
6 雑 収 入	191,396	雑誌発送費	441,321
7 そ の 他	264,742	封 筒 代	220,500
小 計	13,892,078	編集経費	3,818,397
8 予備費より補填	652,099	事務所経費	1,202,648
総 計	14,544,177	4 学会賞関係費	494,726
		5 選挙関係費	0
		6 謝 金	1,268,060
		7 そ の 他	0
		小 計	14,544,177
		総 計	14,544,177

4) 2015年度中間報告 (2015年 6 月30日現在)

A 収 入

(単位千円)

摘 要	(A) 予 算	(B) 1 月～ 6 月 収入額	(C) 7 月～12月 収入見込額	(B + C) 収入見込額
1 学 会 費	6,900	3,731	2,963	6,694
2 賛助会費	100	60	0	60
3 科学研究費助成金	4,000	0	4,000	4,000
4 事業収入	3,501	1,062	1,201	2,263
雑誌売上	1,500	504	500	1,004
別刷売上	2,000	558	700	1,258
利 息	1	0	1	1
5 木原基金	200	0	0	0
6 雑 収 入	100	34	35	69
7 第86回大会補助金返金		526	0	526
小 計	14,801	5,413	8,199	13,612
総 計	14,801	5,413	8,199	13,612

B 支 出

(単位千円)

摘 要	(A) 予 算	(B) 1 月～ 6 月 支出額	(C) 7 月～12月 支出見込額	(B + C) 支出見込額
1 事業費	7,691	2,868	3,587	6,455
雑誌製作費	5,471	2,243	2,000	4,243
大会補助費	1,000	500	500	1,000
遺伝学談話会補助費	300	0	300	300
大会学生旅費補助費	800	0	787	787
協力委員会分担金	120	125	0	125
2 評議委員会／幹事会費	1,200	881	419	1,300
3 事務費	4,120	1,187	3,200	4,387
雑誌発送費	500	238	200	438
封筒代	0	0	0	0
編集経費	2,820	597	2,400	2,997
事務所経費	800	352	600	952
4 学会賞関係費	500	0	200	200
5 選挙関係費	0	0	0	0
6 謝 金	1,290	654	616	1,270
小 計	14,801	5,590	8,022	13,612
総 計	14,801	5,590	8,022	13,612

5) 2016年度予算案

A 収入の部		(単位千円)
摘 要	予 算	
1 学 会 費	6,520	
2 賛助会費	60	
3 科学研究費補助金	3,900	
4 事業収入	2,257	
雑誌売上	756	
別刷売上	1,500	
利 息	1	
5 木原基金	200	
6 雑 収 入	100	
小 計	13,037	
総 計	13,037	

B 支出の部		(単位千円)
摘 要	予 算	
1 事 業 費	6,720	
雑誌製作費	4,500	
大会補助費	1,000	
遺伝学談話会補助費	300	
大会学生旅費補助	800	
協力委員会分担金	120	
2 評議委員会／幹事会費	500	
3 事 務 費	4,067	
雑誌発送費	440	
封 筒 代	0	
編集経費	2,827	
事務所経費	800	
4 学会賞関係費	480	
5 選挙関係費	0	
6 謝 金	1,270	
小 計	13,037	
総 計	13,037	

6) 2015年度日本遺伝学会木原賞・奨励賞

日本遺伝学会奨励賞 河邊 昭（京都産業大学 総合生命科学部）会員

「野生植物集団の遺伝的多様度と変異の維持機構」

日本遺伝学会奨励賞 大野みずき（九州大学 医学研究院）会員

「酸化塩基 8-オキシグアニンはほ乳動物におけるゲノム多様性の原因である」

7) 協力委員会

同位元素協会委員 蓮沼 仰嗣
 自然史学会連合委員 山本 博章
 生物科学学会連合委員 菱田 卓

8) 学会推薦学術賞・研究助成の年間スケジュール

件 名	助 成 団 体 名	締 切
猿橋賞	女性科学者に明るい未来をの会	2015年11月30日 (月)
沖縄研究奨励賞	(財) 沖縄協会	2015年 9 月30日 (水)
朝日賞	朝日新聞社	2015年 8 月25日 (火)
東レ科学技術賞・研究助成	(財) 東レ科学振興会	2015年10月 9 日 (金)
木原記念財団学術賞	(財) 木原記念横浜生命科学振興財団	2015年 9 月30日 (水)
内藤記念科学振興賞	内藤記念科学振興財団	2015年10月 1 日 (木)
内藤記念海外学者招へい助成	内藤記念科学振興財団	前期 2015年 6 月 1 日 (月)
		後期 2015年10月 1 日 (木)
井上学術賞	井上科学財団	2015年 9 月17日 (木)
井上研究奨励賞	井上科学財団	2015年 9 月17日 (木)
井上リサーチアワード	井上科学財団	2015年 7 月31日 (金)
持田記念学術賞	(財) 持田記念医学薬学振興財団	2015年 7 月24日 (金)
研究助成金	(財) 持田記念医学薬学振興財団	2015年 6 月 7 日 (日)
留学補助金	(財) 持田記念医学薬学振興財団	2015年 6 月 7 日 (日)
基礎科学研究助成	(財) 住友財団	2015年 6 月30日 (火)
環境研究助成	(財) 住友財団	2015年 6 月30日 (火)
山崎貞一賞	材料科学技術振興財団	2015年 4 月30日 (木)
研究助成金	(財) 山田科学振興財団	2015年 2 月27日 (金)
藤原賞	(財) 藤原科学財団	2015年 1 月31日 (土)

各種助成金の募集

学会の推薦を必要とする場合は学会内で選考のため財団の提出締切より、通常は1ヶ月早く締め切る。尚、各助成金の詳細については事務局までお問い合わせ下さい。

9) 開催地一覧

回	年	月	日	会 場	回	年	月	日	会 場
1	1928(昭3)	10	19	九州帝国大学農学部	45	1973(昭48)	10	14～16	名古屋大学農学部
2	1929(昭4)	7	26	北海道帝国大学農学部	46	1974(昭49)	9	10～12	福祉会館(仙台)
3	1930(昭5)	10	31	東京農事試験場	47	1975(昭50)	10	3～5	日本大学三島校舎
4	1931(昭6)	10	31	京都帝国大学・楽友会館	48	1976(昭51)	10	28～30	日本生命中之島研究所(大阪)
5	1932(昭7)	10	14	名古屋医科大学	49	1977(昭52)	9	28～30	北海道経済センター(札幌)
6	1933(昭8)	10	26	広島文理科大学 動物学教室	50	1978(昭53)	10	8～10	東京農業大学
7	1934(昭9)	12	21	台北帝国大学 生物学教室	51	1979(昭54)	10	11～13	京都大学農学部
8	1935(昭10)	10	21	金沢医科大学 法医学教室	52	1980(昭55)	10	6～8	富山大学教養部
9	1936(昭11)	10	16	岡山医科大学 生理学教室	53	1981(昭56)	10	12～14	広島大学総合科学部
10	1937(昭12)	7	31	北海道帝国大学理学部	54	1982(昭57)	11	19～21	九州大学医学部
11	1938(昭13)	10	13～15	九州帝国大学農学部・医学部・九州小麦試験地	55	1983(昭58)	10	8～10	東北大学教養部
12	1939(昭14)	10	14～15	科学博物館(東京)	56	1984(昭59)	11	23～25	日本大学国際関係学部
13	1940(昭15)	8	27～28	京城帝国大学医学部	57	1985(昭60)	10	13～15	神戸大学農学部・理学部・自然科学系
14	1941(昭16)	地方談話会大会(6会場)		(総会予定地は仙台)	58	1986(昭61)	12	4～7	名古屋観光ホテル
15	1942(昭17)	10	27～28	東北帝国大学 農学研究	59	1987(昭62)	10	29～30	筑波大学生物科学系
16	1943(昭18)	10	20～21	京都帝国大学・楽友会館	60	1988(昭63)	10	8～10	京都大学農学部
17	1944(昭19)	地方談話会大会(7会場)		(総会予定地は名古屋)	61	1989(平元)	10	13～15	北海道大学学術交流会館
18	1946(昭21)	11	18～19	静岡高等学校	62	1990(平2)	10	4～6	お茶の水女子大学
19	1947(昭22)	10	21～22	松本高等学校	63	1991(平3)	10	16～18	九州大学箱崎キャンパス
20	1948(昭23)	10	23～24	高野山	64	1992(平4)	10	22～24	仙台国際センター
21	1949(昭24)	10	20～22	名古屋大学理学部	65	1993(平5)	9	17～19	日本大学国際関係学部
22	1950(昭25)	10	14～16	東京大学医学部	66	1994(平6)	10	8～10	大阪大学医学部講義棟
23	1951(昭26)	10	11～12	広島大学教養部	67	1995(平7)	10	12～14	岡山大学一般教育講義
24	1952(昭27)	10	8～10	新潟大学医学部	68	1996(平8)	10	3～5	名古屋・椋山女学園大学
25	1953(昭28)	11	7～8	国立遺伝学研究所	69	1997(平9)	11	1～3	横浜市立大学瀬戸キャンパス
26	1954(昭29)	10	28～30	京都大学医学部	70	1998(平10)	9	23～25	北海道大学学術交流会館
27	1955(昭30)	10	16～18	岡山大学	71	1999(平11)	9	24～26	広島大学理学部・法学部・経済学部
28	1956(昭31)	10	6～8	富山市公会堂	72	2000(平12)	11	3～5	京都大学農学部・京都府会館会議場
29	1957(昭32)	9	3～5	北海道大学農学部	73	2001(平13)	9	22～24	お茶の水女子大学
30	1958(昭33)	10	16～19	名古屋大学医学部	74	2002(平14)	10	1～3	九州大学箱崎キャンパス
31	1959(昭34)	11	4～7	大阪大学医学部	75	2003(平15)	9	24～26	東北大学川内キャンパス
32	1960(昭35)	10	30日～11月1日	九州大学工学部	76	2004(平16)	9	27～29	大阪大学コンベンションホール
33	1961(昭36)	9	1～3	東北大学川内分校	77	2005(平17)	9	27～29	国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)
34	1962(昭37)	10	17～18	日本大学文理学部三島校舎	78	2006(平18)	9	25～27	つくば国際会議場
35	1963(昭38)	10	8～10	東京大学教養学部	79	2007(平19)	9	19～21	岡山大学
36	1964(昭39)	10	18～20	愛媛大学	80	2008(平20)	9	3～5	名古屋大学
37	1965(昭40)	10	18～20	京都大学医学部・楽友会館	81	2009(平21)	9	16～18	信州大学
38	1966(昭41)	8	10～12	北海道大学教養部	82	2010(平22)	9	20～22	北海道大学高等教育機能開発総合センター
39	1967(昭42)	10	9～11	神戸大学教養部	83	2011(平23)	9	20～22	京都大学農学部・農学研究科(吉田キャンパス北部構内)
40	1968(昭43)	10	7～9	広島大学教養部・政経学部	84	2012(平24)	9	24～26	九州大学医学部百年講堂・同窓会館
41	1969(昭44)	10	10～12	金沢大学工学部	85	2013(平25)	9	19～21	慶應義塾大学日吉キャンパス
42	1970(昭45)	10	5～7	東京女子大学短期大学部	86	2014(平26)	9	17～19	長浜バイオ大学
43	1971(昭46)	10	20～22	九州大学理学部・農学部	87	2015(平27)	9	24～26	東北大学川内北キャンパス
44	1972(昭47)	10	7～9	岡山大学理学部・法文学部					

●●● 仙台大会の様子 ●●●



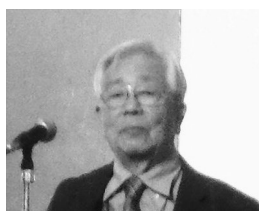
第87回大会看板



西尾大会委員長



遠藤学会長



関口名誉会員



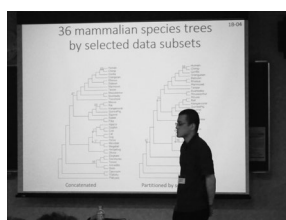
東北大学駒井農学研究科長



桂次期大会委員長



総会幹事報告



一般講演の演者



プレナリー 1



会長と受賞者

奨励賞授賞式



河邊会員



大野会員



プレナリー 2



プレナリー 3



WS の様子



共同参画ランチョンセミナー

2015年度ナイトゼミナールの報告

本年のナイトゼミナールは、大会会場であった東北大学・川内北キャンパス内の食堂施設である『Bee ARENA Cafe』をお借りして開催した。この場所は、以前にはカレー専門の「川内第二食堂」(別名、貧民救済食堂または貧食; 写真左)があった敷地であり、東北大学のご出身の方には、感慨深い土地であったかもしれない。現在は、他の大学よろしく写真右のようなお洒落なカフェに様変わりしているが、かつてはレギュラーカレー180円という貧乏学生救済の場であったのだ。実は私、今回の主幹事自身もカレーで口を糊する貧乏東北大生であったので、この場所で皆様をおもてなしすることになるとはと、思わぬ縁の不思議と感慨を味わった。



かつての貧食の佇まい。ほとんどオバケ屋敷かスラムである



現在の新装 Bee ARENA Cafe (2008～)。以前の面影はまったく無い

さて、この川内キャンパスで行われたナイトゼミナールでは、山口由美、一柳健司、古郡麻子、鈴木崇之、萩島創一博士に、それぞれ集団進化、エピゲノム、分子遺伝、行動発生、生命情報の各分野の幹事をお願いさせて頂いた。無事、盛況のうちに完了することが出来たので、各幹事からの一言を、下記にスナップ写真と共に掲載したい。

1. 集団進化：

幹事・山口由美博士(東北大東北メディカル・メガバンク機構)

外国からの研究者も加わり、大勢でにぎやかでした。新人からベテランの先生方まで参加者の年代層も広く、有意義な交流ができたと思います。



2. エピゲノム：

主幹事・一柳健司博士（九大生体防御医学研究所）

哺乳類、植物、酵母菌など様々な生物でエピジェネティクスやエピゲノムの研究をしている人、さらにこれらと関係の深いトランスポゾンのおタク達が集い、大変楽しい会でした。特に大学院生、ポスドクといった若手の参加が多く、活気がありました。



3. 分子遺伝：

主幹事・古郡麻子博士（奈良先端大バイオサイエンス研究科）

例年より参加者は多くはありませんでしたが、DNA複製・修復分野の研究室からの参加者を中心に世代を超えてじっくりと交流を深める事ができ、楽しく有意義なゼミナールになりました。



4. 行動発生・生命情報：

主幹事・鈴木崇之博士（東工大生命理工学研究科）・

荻島創一博士（東北大学東北メディカル・メガバンク機構）

（荻島博士） 生命情報に関わる研究者が集い、分子進化もふくめた生命情報の研究について情報交換することができ、非常に有意義だった。自己紹介をするなかで、意外なつながりが発見でき、楽しいナイトゼミナールとなった。

（鈴木博士） 実は行動・発生のくくりで参加している人は周りに見当たらなかった。しかし、生命情報の方々と知り合うことが出来、非常に楽しかった。また、テーブルに座らずに、立食でわいわいと飲んでいるグループもいて、そういう雑多な集まりも許容している自由な雰囲気の中、楽しむことが出来た。立食パーティーと座談会の両方の良い面を取り入れた会だった。

さて開催に当たっては、日本遺伝学会から費用のサポートを頂いたことに、心より感謝と御礼を申し上げたい。東北大学の施設を使用させて頂き、東北大学生協のオードブルを注文したことで、会場費を無料に抑えられた。その余裕を活かして、東北大学オリジナルブランドのビール（パールエールとヴァイツェン）、ワイン（カベルネ&メルロとシャルドネ）および日本酒（純米酒萩丸）をお出ししたところ好評であり、とくにビールがお褒めに預かった。試されたい方には通販もある（<http://www.tohoku.u-coop.or.jp/shopping/goods/>）。さらに、外部ケータリングによる特上の寿司皿、カニ甲羅揚げ、喫茶店製のピザおよびサンドウィッチをお出し出来たうえに、参加費を無料にすることが出来た。事前にナイトゼミナールへの参加を登録して下さった会員の皆様には、とくにメリットがない形となってしまう恐縮であったが、頂いた登録人数の情報が、上記の飲食をアレンジするうえで非常に役立った。それを以ってご容赦と願いたい。飛び入り参加の方も含めて、70人前後の皆様が仙台の夜と味覚を楽しんで下さったことで、幹事一同も冥利に尽きるひと時になった。



外から中の様子を撮った写真（2015.09.25 19：00頃）

日本遺伝学会第87回大会 収支報告書

収 入 の 部				支 出 の 部	
参加費			<u>1,301,000</u>	会場準備費	<u>2,072,084</u>
事前 一般会員	131名 × @ 7,000	917,000		HP 作成・維持管理費	757,620
事前 非会員一般	4名 × @ 9,000	36,000		プログラム作成・印刷費	869,400
事前 学生会員	43名 × @ 0	0		その他印刷物作成費	370,728
事前 非会員学生	5名 × @ 0	0		消耗品	24,852
当日 一般会員	31名 × @ 8,000	248,000		その他	49,484
当日 非会員一般	10名 × @ 10,000	100,000			
当日 学生会員	14名 × @ 0	0		会場当日費	<u>2,718,733</u>
当日 非会員学生	15名 × @ 0	0		会場費（附帯設備含む）	364,878
懇親会費		<u>998,000</u>		展示会場設営費	419,040
事前 一般	95名 × @ 7,000	665,000		運営スタッフ人件費	246,000
事前 学生	30名 × @ 4,000	120,000		アルバイト人件費	349,600
当日 一般	21名 × @ 8,000	168,000		懇親会費	1,049,565
当日 学生	9名 × @ 5,000	45,000		会場 お茶代	9,285
要旨集広告掲載料		<u>399,600</u>		スタッフ弁当・お茶代	104,220
展示会出展料		<u>302,400</u>		演者謝金・交通費	151,370
プログラム予稿集		<u>39,000</u>		会場清掃費	24,775
一般	9部 × @ 3,000	27,000			
学生	12部 × @ 1,000	12,000		業務委託費	<u>216,000</u>
補助金その他					
日本遺伝学会 補助金		<u>1,000,000</u>		その他	<u>69,644</u>
科研費		<u>1,300,000</u>			
宮城県 補助金		<u>90,000</u>		学会補助金 返還分	<u>383,665</u>
寄付		<u>30,000</u>			
利息		<u>126</u>			
合 計		5,460,126		合 計	5,460,126

日本遺伝学会第87回大会を終えて

平成27年度の日本遺伝学会大会は、東北大学川内北キャンパスを会場として9月23日から25日まで開催の予定でしたが、人気アイドルグループのコンサートが19日から23日まで仙台近郊で開催されることが5月に発表され、ホテルの確保が困難となることが予想されたため、日程の変更を余儀なくされました。利用できる会場の関係で、大きな日程変更は困難であったため、1日遅らせて9月24日から26日午前までに変更し、24日の講演開始を10時半からとしました。本大会の参加者は252名で、そのうち当日参加者は70名でした。ホテルの予約が困難となることが、一般参加者の減少につながったものと考えられます。

本大会では、一般講演120演題の他に、国際公開シンポジウム5演題、国際若手セッション6演題、ワークショップ12件の61演題（プレナリーワークショップを含む）、合計192演題が全て口頭発表で行われました。英語で行われた国際公開シンポジウム（Molecular evolution and population genetics in Asia）には、海外から4名の講演者を招聘し、活発な討論が行われました。12件の多彩なワークショップの他に、男女共同参画公開ランチョンワークショップが開催され、100名程度の多数の参加があり、3つの講演が行われました。企業展示は大会の運営上重要ですが、ブース展示2件、書籍展示2件と少なく、また、展示会場に足を運ばれる参加者が極めて少なかったことが、大きな反省点でした。

初日の夜の懇親会は、仙台の中心地のホテルで開催され、約130名の参加者がありました。宮城県の地酒や地ビール、特徴的な新品種の米を使った料理も提供され、盛大に行うことができました。大会2日目には、好評のナイトゼミナール（分野別懇談会）を開催しました。東北大学内のカフェを借り切って同一会場で行い、全分野で約20名の学生を含む約70名の出席者がありました。各分野内の交流と共に異分野の研究者との交流もでき、参加者の満足度が大変高い会となりました。

今回の大会運営は、学会講演会運営の経験が豊富な業者に依頼し、事務局と緊密に連絡を取りながら行いました。参加登録・演題登録は、業者が作成したWeb登録システムを利用しました。国際化のための試みとして、参加・演題登録のシステムは英語も併記し、英語の発表には印を付けることにいたしました。当初予定した締め切り日までに登録された演題が少なかったため、1週間登録期間を延長しました。その結果、プログラム編成には、プログラム委員に短期間集中の努力をお願いすることになりました。ただ、プログラム完成が遅れたにもかかわらず、予稿集作成と送付が大会に間に合いましたのは、大会運営を担当した業者の力によるところが大きかったと思われます。

9月26日午後には、JSPS 科研費 15HP0023 の助成を受けた公開市民講座「パーソナルゲノム時代の遺伝学と人間社会」を仙台国際センター大ホールにおいて開催しました。遠藤学会長を始め5名の著名な講師に、人の個人遺伝子検査を中心に、ヒトゲノムの多様性と健康との関係の話題を含め、ゲノム情報の利用による食料生産まで、幅広く人間社会に影響するゲノム情報とその利用について紹介していただきました。生憎の雨天の影響もあり、参加者が大ホールを利用した割には少なく125名で、仙台市や近隣の教育機関に広く宣伝した効果が十分ではなく残念でした。参加者の約半数が日本遺伝学会や大学の関係者で、残り半数は一般市民で、高校生から80歳代という幅広い年代でした。約90名の参加者からアンケートに回答があり、内容や分かりやすさで好評でした。

おかげさまで第87回大会および公開市民講座は無事に終了し、またそれぞれの決算および報告も11月初めに完了しました。この場をお借りして、日本遺伝学会からのご援助と、大会組織委員の皆様や遺伝学会員の皆様のご支援・ご協力に厚く御礼申し上げます。

第87回大会委員長 西尾 剛

日本遺伝学会第87回大会総会議事録

日 時 2015年9月24日(木) 15時15分～16時15分
場 所 東北大学川内北キャンパス マルチメディア棟2階 206
出席者 遠藤 隆会長、幹事他90名

1. 議長選出

議長に牧野能士会員(東北大学大学院生命科学研究科)副議長に河合洋介会員(東北大学東北メディカル・メガバンク機構)が選出された。

2. 西尾 剛大会委員長挨拶

3. 遠藤 隆日本遺伝学会会長挨拶

4. 報告事項(評議員会議事録参照)

5. 議 事

① 2014年度会計決算について

真木会計幹事から総会資料にもとづき説明がなされた。また、池尾一穂会計監査から、5月27日に松岡聡会計監査とともに国立遺伝学研究所にて会計監査を実施した結果、2014年度の会計は適正に行われている旨の報告があり、それぞれ承認された。

② 2016年度予算案について

真木会計幹事から、総会資料にもとづき説明があり、予算通り承認された。

③ 第89回大会について

遠藤企画集會幹事から、第89回大会が評議員会において岡山地区で開催することが認められている旨の報告がなされ、同地区での開催が承認された。これを受け同地区の村田 稔会員より皆様のご参加を歓迎する旨の挨拶がなされた。

④ その他(法人化について)

遠藤会長より学会の法人化実施案として、遺伝学普及会との合流について説明がなされ(詳細は幹事会、評議員会議事録参照)手続きを進める段階で合流に不都合が生じた場合には、遺伝学会が独自で法人化を行うことが承認された。

来年の総会にて結果を報告する。

日本遺伝学会奨励賞授与式記録

総会終了後奨励賞受賞者(河邊 昭会員、大野みずき会員)に遠藤 隆会長からそれぞれ賞状と副賞が授与された。授賞式終了後に奨励賞受賞講演が行われた。

2015年度日本遺伝学会第2回幹事会・評議員会議事録

日 時：2015年9月23日（水）（幹事会）12時00分～14時30分

（評議員会）14時40分～16時40分

場 所：（幹事会）長浜バイオ大学 命北館1階セミナー室⑤

場 所：東北大学川内キャンパス C棟 C201

出席者：（会 長）遠藤 隆

（幹 事）小林, 岩崎, 菱田, 真木, 舘田, 遠藤俊, 中別府, 山本博, 榊屋, 杉本, 篠原, 荒木, 那須田, 池村, 平田, 西尾（第87回大会委員長）, 北柴, 山本雅（第87回大会準備委員）（順不同, 敬称略）, 鈴木（事務局）

（評 議 員）荒木, 五條堀, 松浦, 佐渡, 斎藤, 颯田, 高橋, 田村, 山元, 河村, 阿部, 田嶋, 野澤, 菅澤, 阿保, 楠見（順不同, 敬称略）

1. 会長挨拶（遠藤 隆）

2. 大会委員長挨拶（西尾）

人気グループ嵐のコンサートと日程が重なったため、仙台市内の宿泊施設が確保できないことより当初予定していた日程を1日繰り下げて9月24日～9月26日（午前中）に開催日をずらしたことで、当初3日間の開催を予定していたが、26日の午後に公開市民講座を開催するため2.5日に短縮して開催することになったことなどが報告された。事前参加登録者数は例年にくらべてやや少なめであるが、懇親会の参加者は例年とほぼ同じくらいの参加者が見込まれることより、後半からの当日参加者増で大会を盛り上げていきたいと報告がなされた。26日午後には仙台国際センターにて公開市民講座を開催することが報告された。

3. 報 告

3.1 会長（遠藤 隆）

第86回大会以降の物故会員の報告がなされた。

- 国外名誉会員 Dr. Mary Frances Lyon (2014. 12. 25 享年89歳)
- 防衛大学校応用科学科 牧野耕三教授 (2015. 9. 16 享年59歳)

第1回幹事会および評議員会以降の主な活動について次のような説明がなされた。

- 会員カテゴリーの多様化について

定年を迎えられる会員が学会員を継続しやすいようにするための新たな会員種類の設定や学部学生、大学・研究所以外からの受入（中高の教員等）は、会費体系の見直しを行うこととし、実施案の作成を真木会計幹事に依頼したと報告がなされた。

- 法人化について

第1回評議員会後に法人化の手続きについて調査し、育種学会の法人化を実施した中西印刷に山本法人化担当幹事と出向き、法人化のノウハウについて教えていただいた。また、7/6に日大三島キャンパスにて小林、野々村両庶務幹事と打ち合わせを行い、公益財団法人遺伝学普及会との合流についての提案がなされた。遺伝学普及会は、国立遺伝学研究所を現在遺伝学会事務局がある三島市谷田に設立するために遺伝学会に発足した委員会であり、遺伝学会とは関わりが深い団体であるとの説明がなされた。また、遺伝学会と遺伝学普及会の合流についての手順を遺伝学普及会の公認会計士に確認したところ、普及会の約款を変更することで、現在の遺伝学会の規約を変更することなく法人化が行えること、独立して事業を行えると回答をいただき、学会単独で法人化を実施するよりもコストを押さえるメリットが大きいと判断し、評議員会にこの案を提案した。評議員より、名前についてどうなるかという質問があり、正式な名称は後日確認して回答することで了承された。この案を総会に諮ることが了承された。

3.2 法人化担当幹事（山本）

会長報告を参照

3.3 国内庶務幹事（小林）

以下のシンポジウム等の後援、協賛の報告がなされた。

- 第52回アイソトープ・放射線研究発表会
- 第10回女子中高生のための関西科学塾
- 平成27年度「女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い～」
- 甲南大学1日科学体験

第86回大会以降の学術賞・研究助成報告がなされた。結果は以下の通り。

- 平成26年度兵庫県科学者賞 中村千春会員（神戸大学名誉教授）
- 東レ科学研究助成（2014）採択 石井浩二郎会員（大阪大学）
- 木原学術賞（2014）は不採択であった。

この他の報告として、プレナリーWS 演者の1人1演題ルール適用については、今後、学会賞と同じ扱いとしてこのルールを適用しないことが了承された。

また、分子生物学会より第89回大会合同開催について打診があったことが報告されたが、再来年の開催候補地についてはすでに学会内で検討しているため、今回は合同開催をお断りすることで了承された。今後は開催の3年くらい前に打診いただければ検討していきたい。

学会 HP への有料広告掲載についての規定を小林幹事がとりまとめることで了承された。

3.4 渉外庶務幹事報告（岩崎、菱田）

生物科学学会連合（29団体）活動報告では、生物科学学会連合パンフレット2015の発行、ポスドク問題検討委員会活動については、報告書（改訂版）の発行について報告がなされ、卓越研究員という新たな研究員のポジションが設定されることが報告された。教科書問題検討委員会については用語の抽出を実施し、今後 WG で抽出結果について検討をしていくことが報告された。

第16回遺伝学談話会については九州地区評議員の一柳会員が世話人として12月8日に九州大学病院キャンパスにて開催を予定している。今後、HP、メーリングリストで案内をすることが報告された。

3.5 会計幹事報告（真木）

2015年度の会員数、2014年度の収支報告、2015年度の中間報告、特別事業基金についての報告がなされた。分野別懇談会を今年も実施するにあたり、昨年と同様に24万円の支援を学会より行うことが報告された。今後は支援金に余りがあった場合は学会に返却していただくことが了承された。

また、遺伝学会会員区分の新設について以下の提案がなされた。

【会員区分の多様化の提案】

1) 普通会员に加えて、新たにシニア会員とジュニア会員を新設する。

シニア会員：65歳以上の普通会员が会員種類の変更を申し出ることができる。

- ・ 3万円の永年会費を前納する。
- ・ 以降は年会費の納入は不要。
- ・ 雑誌の送付はしない。
- ・ 大会参加費は無料とする（学会予算からの補助）。

ジュニア会員：大学学部生と高校教員を対象（在学証明書、在職証明書の提出）。

- ・ 年会費は2,000円とする。
- ・ 雑誌の送付はしない。
- ・ 大会参加費は無料とする（学会予算からの補助）。

2) 雑誌の送付は普通会员の希望に基づくこととする。雑誌の送付を希望しない普通会员は、年会費を500円減額する。

この他に休会の設定（育児休暇等も含む）も考慮し、2016年4月を目標に上記の案について検討を進めていくことで了承された。

3.6 編集幹事（館田）

GGs 論文賞選考経過、平成27年度科研費使途の説明、GGs ホームページ改訂状況の説明、新編集委員および編集顧問の紹介、GGs の編集および発行状況、GGs 特集号発行の準備状況、JST 早期公開機能の手順と変更案について報告がなされた。（詳細は編集委員会議事録を参照）

3.7 企画集会幹事（遠藤俊、中別府）

遠藤俊徳幹事より第87回大会 BP 賞投票について協力の依頼がなされた。また、大会開催準備についての課題（WS における非会員演者の扱いについて、演題登録の重複について、演題登録システムの機能性について）があげられた。今後の対応については第88回大会準備委員会と調整をしていくこととした。

第88回大会については、桂勲次期大会委員長より日大三島国際関係学部キャンパスにて2016年9/7(水)～9/9(金)に開催し、9/10に市民公開講演会を開催する予定で準備を進めていることが報告された。

また、中別府幹事より、国際シンポジウム（in 仙台）の招聘教授（編集委員、編集顧問にご就任いただく、Suhua Shi 先生、Kim Hie Lim 先生、Wen-Hsiung Li 先生、Hung-Yi Wang 先生）のご紹介（この後の編集委員会よりご出席）、日台学生交換プログラムによる2名の台湾からの学生の受け入れについての報告

がなされた。最後に ISEGB2015 のへの派遣学生公募状況については9/30まで受付を延期したので、積極的にご応募くださるよう依頼がなされた。

3.8 将来計画幹事（榎屋、杉本）

遺伝学用語集編集委員会活動は、『主要語の解説』の校正が一巡目が完了したことが報告された。また、オンライン出版に向けてテストサイトを作成しことが報告された。今後、体裁の改良、用語解説の内容についての校正、Word Press からのオンライン出版のためのデータ出力が可能か検証していくことが報告された。また、オンライン販売とすかどうか、価格の設定、ISBN、Doi 等の取得について等どうするか検討していく予定であると報告された。

オンライン学術用語集（Sciterm）の移行の覚書を8月6日にJSTと締結したことが報告された。

3.9 男女共同参画推進担当幹事（篠原）

遺伝学会全会員における女性比率の推移と傾向について、大会参加時のWEBアンケートの結果より、学会員全体で女性比率のアップは女子学生の増加によるものと報告がなされた。また、大会における発表形態、役割別男女比率では一般講演、WS発表者間でバイアスはみられない。またオーガナイザーではWS、シンポジウムともバイアスは見られなかったが、一般講演座長では全体との間でやや下方バイアスがみられると報告された。

今大会ではランチョンWSを東北大学との共催とした。また、大会参加支援は2件の申請があり、いずれも支援を行うことが報告された。この他に第13期第3回運営委員会への出席の報告がなされた。今後の活動として、第13期男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへ学会から3名の会員（篠原会員、高橋会員、大坪会員）が参加すること、第9回女子中高生のための関西科学塾で篠原委員が大阪大学にて公開実験を行う予定であることが報告された。『女子中高生夏の学校2015』は池村幹事より報告。

3.10 広報担当幹事（那須田）

GSJ コミュニケーションズに Dr. Mary Frances Lyon と牧野耕三会員の追悼記事を掲載する予定であると報告がなされた。

3.11 遺伝学普及・教育担当幹事（池村、平田）

2015年8月6～8日に国立女性教育会館で行われた「女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い～」にて、池村会員と上原啓史会員が演示実習「コンピュータで探す健康や環境浄化に関わる遺伝子」を行ったことが報告された。（詳細については学会HPを参照）

また、一般の方から色盲検査の就学時での検査復活についての問い合わせをいただき、学会としては新聞の記事に掲載されている検査復活についての背景や、色盲についてのバリアフリーに取り組んでる研究者の紹介記事とともに、会長からの私見を同封して回答させていただいたことが報告された。

3.12 2015年度日本遺伝学会賞選考委員会報告（遠藤 隆）

7月16日に国立遺伝学研究所にて開催された学会賞選考委員会について報告がなされた。本原賞0件奨励賞3件の応募があり、審議の結果、次の会員を授賞者とした。

本原賞：なし

奨励賞：河邊 昭会員、大野みずき会員

4. 協議事項

- 2014年度決算および2016年度予算案は会計幹事報告の際に、審議され了承された。
- 第89回大会開催地は中国・四国地区（岡山大学）にお願いすることで了承された。
- 法人化については遺伝学普及会との合流を第1案として手続きを進めていくこと、手続きをすすめていくうえで不都合が生じた場合には遺伝学会単独で法人化を進めることが了承された。

以上

2015年度日本遺伝学会編集委員・編集顧問合同会議事概要

開催日時：2015年9月23日（水）16時50分～18時50分

会議場所：東北大学川内キャンパス（Aエリア）A04 講義棟 C 棟 C201

出席者：岩崎，真木，松浦，村田，中別府，西原，颯田，澤村，城石，舘田，田嶋，田中，寺地，那須田，
五條堀，遠藤，権藤，Li，Shi，Kim，Wang（敬称略）

議 題

1. GGS PRIZE について

颯田委員より候補3論文が選ばれた経緯及び各論文の内容の説明があった。審議の結果その中から次の1編を GGS prize 2015として決定した。

Ryosuke Kakehashi, Atsushi Kurabayashi, Shohei Oumi, Seiki Katsuren, Masaki Hoso and Masayuki Sumida
Mitochondrial genomes of Japanese *Babina* frogs (Ranidae, Anura): unique gene arrangements and the phylogenetic position of genus *Babina*. Genes Genet. Syst. (2013) 88, p. 59–67.

Arguments supporting this decision were:

Babina is a genus of frogs comprising 10 species, and is famous because a few species such as *B. holsti* and *B. subaspera* have an extra digit-like structure, which is a unique character among amphibians. The two species are important because they are endemic to Okinawa and Amami, respectively, and they, as well as *B. okinavana*, are endangered species. However, their genetic characteristics were poorly understood and the phylogenetic position of *Babina* has not been determined. In this work, the authors determined the complete sequences of the mitochondrial genomes of the three endangered *Babina* frogs. They revealed that *Babina* is the closest relative of genus *Odorrana* among frogs. It was also found that *B. holsti* and *B. subaspera* share a unique characteristics of mitochondrial gene order. According to the determined phylogeny, they proposed a clear and simple evolutionary history for the gene rearrangement, in which the gene orders of *Babina* have been established via a segmental duplication involving five genes in the common ancestor of *Babina* and *Odorrana*, followed by a species-specific loss and pseudonization of genes. Therefore, these findings are highly valuable in many ways such as determination of the phylogenetic relationships of frogs, finding of the new rearrangement history of mitochondrial genomes, and provision of the genetic information that will contribute to the conservation of these endangered species. Thus, this paper has had significant impacts on broad research fields.

2. 平成26年度科研費（研究成果公開促進費）

種 目：国際情報発信強化（国際情報発信強化（B））

事業課題名：アジアの遺伝学を主導する学術雑誌を目指した取り組み

交付予定額：平成26年度 3,900,000円 平成27年度 4,000,000円

平成28年度 3,900,000円 平成29年度 4,000,000円

目 標

アジアの遺伝学の主要雑誌となることを目指し，5年間で

(1) GGS 編集委員・顧問の外国人（アジアを中心に）を20人に増員，現在 編集委員12人，編集顧問5人

(2) 投稿数を現在の1.5倍，

とする。

27年度科研費の使途

編集委員会開催に係る旅費	1,600,000
編集委員会開催に係る消耗品費・会議費	20,000
欧文校閲費	880,000
学術刊行物に係る電子化関連経費（ホームページ改善）	500,000
学術刊行物の印刷代，用紙代，製本代等の出版費	1,000,000
プロモーション活動等に係る経費	0

3. ホームページの改訂

平野・中別府・高橋委員による WG 作成の原案を検討した後了承.

- ・ Call for papers は, 館田編集長が, 投稿を歓迎する文を書く.
 - ・ GGS prize は, 颯田委員にリストを作ってもらう.
 - ・ Recent Review Articles は, 10-20報の review のリストを岩崎委員につくってもらう.
- それぞれリンクを張る.

4. 編集顧問ご退任

伊藤 建夫 先生

飯田 滋 先生

5. 編集委員長・編集幹事の任期

編集委員長・編集幹事の任期を4年とする. 最初と最後の1年は前任, 後任と重ね編集幹事は二人とする. 最初の1年は前任者が, 論文アクセプト後の印刷および最終公開までの処理を行う.

報告・協議事項

1. 論文発行状況

Volume 89

号	掲載論文数	Review	Full	Short	Other
1	6	4	0	1	1
2	7	0	4	2	1
3	7	2	1	3	1
4	5	1	2	2	0
5	5	0	5	0	0
6	2	0	2	0	大会抄録

Volume 90

号	掲載論文数	Review	Full	Short	Other
1	6	0	5	1	0
2	6	0	4	2	0
3 (予定)	8	4	1	2	1
4					
5					
6					

2. 論文投稿状況 (9月8日現在)

	2014. 9. 1 - 2015. 8. 31	2013. 9. 1 - 2014. 8. 31 (参考)
投稿論文数	83	73
採択論文数	33	40
不採択論文数	34	31
校閲中又は 取下げ論文数	16	2
採 択 率	49.3% (33/77)	56.3% (40/71)

3. Impact factor

2014年の Impact factor が若干回復.

2014 0.930

2013 0.870

4. 2016年2月号 (Vol. 91 No. 1) GGS 特集号について (村井委員)

以前 (2014年12月4日メール会議) お語りした, 新学術領域「ゲノム・遺伝子相関—新しい遺伝学分野の創成—」の成果を取りまとめた GGS 特集号の詳細.

<特集タイトル>

Correlative gene system: establishing next-generation genetics

GGG 表紙の写真を新学術領域のロゴにすることを希望

<内容>

新学術領域「ゲノム・遺伝子相関—新しい遺伝学分野の創成—」の成果を取りまとめる特集号. 動・植物ならびに微生物を織り交ぜ, 遺伝学分野の最先端トピックスに関する総説やオリジナルペーパー

<Editor>

GGG editors

村井耕二, 松田洋一

Guest Editors

木下 哲 横浜市立大学・木原生物学研究所 植物エピゲノム科学部門

高橋 文 首都大学東京理工学研究科 生命科学専攻進化遺伝学研究室

5. JST 早期公開

Vol. 90, No. 3 発行 (10月初旬予定) 後, J-STAGE の早期公開機能を使って開始する. 早期公開機能使用は無料だが, 書誌情報作成に1論文あたり1,000円必要 (会計幹事承認済み). なお DOI は早期公開版と最終版で同じとなるため, No. 4 より (<http://doi.org/10.1266/ggs.90.1>) を (<http://doi.org/10.1266/ggs.GGS-D-14-00070>) の形式に変更する.

手順

編集委員がそのまま早期公開出来ると判断したものをアクセプトとする. 英文校正が必要と判断したときには著者に要請し, 校正後の論文をアクセプトとする.

- 1) 著者から Editor-in-chief へ最終原稿を送付する.
- 2) 英文校閲者によるタイトルのチェックと論文のフォーマットチェックを行う.
- 3) J-STAGE で早期公開する.
- 4) 英文校閲者が著者とやり取りしながら全文を英文校正を行う.
- 5) 英文校正された最終原稿を著者が Editor-in-chief へ送付する.
- 6) 印刷所へ送付する.
- 7) 印刷版の校正を著者が行う.
- 8) 印刷および最終版の公開を J-STAGE で行う.



新しく GGS 編集委員・編集顧問にご就任いただいた先生方

前列左から一番目 Dr. Suhua Shi

前列左から二番目 Dr. Kim Hie Lim

前列右から一番目 Dr. Wen-Hsiung Li

後列左から二番目 Dr. Hurng-Yi Wang

Genes & Genetic Systems

The Genetic Society of Japan

About this journal

Submission

Instruction Manual

PDF download

GGS prize

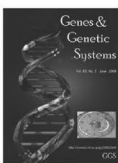
Editorial Board

Current Issue

Early Online Articles

Recent Review Articles

[Call for papers](#)



GGS is OPEN ACCESS



89-2 (2014)



89-1 (2014)



88-6 (2013)

Genes & Genetic Systems

The Genetic Society of Japan

About this journal

Submission

Instruction Manual

PDF download

GGS prize

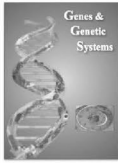
Editorial Board

Current Issue

Early Online Articles

Recent Review Articles

[Call for papers](#)



GGS is OPEN ACCESS



89-2 (2014)



89-1 (2014)



88-6 (2013)

J-STAGE

Genes and Environment

Sciences for Genome Safety

The Japanese Environmental Mutagen Society

| About My J-STAGE | Sign-in | Register | Shopping Cart | Help | [Japanese](#) [English](#)

ONLINE ISSN: 1880-7062 PRINT ISSN: 1880-7046 (As of September 15, 2015) Registered articles: 245

Article

Volume/Issue/Page | DOI

Search in this title

Advanced Search

Browse

Latest Issue Advance Publication

About The Publisher

J-STAGE Home > Publications - Top



Latest Volume/Issue

Advance Publications

Volume And Issue List

Genes and Environment

- Vol.36(2014)
 - No.4 p.167-174
 - No.3 p.69-74
 - No.2 p.29-34
 - No.1 p.1-6
- Vol.35(2013)
- Vol.34(2012)
- Vol.33(2011)
- Vol.32(2010)
- Vol.31(2009)
- Vol.30(2008)
- Vol.29(2007)
- Vol.28(2006)

Genes and Environment Vol. 36(2014) No. 4

Special Issue

[Open All Abstracts](#)

EDITORIAL INTRODUCTION

Introduction to a Special Issue on the *Pig-a* Gene Mutation Assay p.167-168

Takafumi Kimoto

Released: December 02, 2014

[Advance Publication] Released: October 15, 2014

[Full Text PDF\[92K\]](#)

REVIEW

The *In Vivo* *Pig-a* Gene Mutation Assay p.169-173

Daishiro Miura

Released: December 02, 2014

[Advance Publication] Released: October 10, 2014

[Abstract](#) [Full Text PDF\[222K\]](#)

REGULAR ARTICLE

In Vivo Mutagenicity of Ethyl Methanesulfonate Detected by *Pig-a* and PIGRET p.174-178

Assays

Satoru Itoh, Mayumi Nagata, Chiharu Hattori, Wataru Takasaki

Released: December 02, 2014

[Advance Publication] Released: August 10, 2014

[Abstract](#) [Full Text PDF\[198K\]](#)

System Maintenance

J-STAGE will undergo scheduled maintenance as follows.

Year 2015

Sep 26(Sat) 10:00 - 15:00(JST)

(Sep 26(Sat) 01:00 - 08:00(UTC))

[Details](#)

Announcement From J-STAGE

August 20, 2015

My J-STAGE Sign-in with Google ID will end on August 22, 2015.

May 01, 2015

Please note the "spoofing mail" that pretends to be J-STAGE.

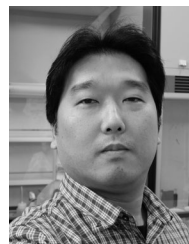
[Back Issues](#)

Journal Tools

[Add to Favorites](#)

2015年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

推薦者：高野 敏行（京都工芸繊維大学 教授）
 受賞候補者：河邊 昭（京都産業大学総合生命科学部 准教授）



・略 歴

平成9年3月 京都大学農学部農林生物学科卒業（農学士）
 平成11年3月 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻修士課程修了（農学修士）
 平成13年4月 日本学術振興会特別研究員（DC）（京都大学農学部植物遺伝学研究室）
 平成14年3月 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻博士後期課程修了 京都大学博士（農学）
 平成14年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（国立遺伝学研究所集団遺伝研究部門）
 平成15年4月 大阪大学工学部 博士研究員
 平成16年6月 エジンバラ大学進化生物学研究所 博士研究員
 平成19年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（国立遺伝学研究所集団遺伝研究部門）
 平成22年4月 京都産業大学総合生命科学部 准教授（現在に至る）

・遺伝学会における活動歴

平成9年～現在まで 日本遺伝学会普通会員
 平成9年～平成26年 日本遺伝学会本大会で口頭発表（自身の口頭発表17件うちワークショップ4件，共著による発表22件うちワークショップ1件）（平成16年は国外の所属のため不参加，共著による発表2件）
 平成23年 第83回大会プログラム委員，ワークショップ世話人
 平成24年 第84回大会ベストペーパー賞
 Genes and Genetic systems に6報の論文発表

・研究題目：（和文）野生植物集団の遺伝的多様度と変異の維持機構

（英文）Genetic diversity and its maintenance mechanism in wild plant populations

・推薦理由

河邊さんは京都大学農学部で研究活動のキャリアを開始して以来一貫して，シロイヌナズナとその近縁植物を材料に歪みのない遺伝的多様度の評価，記載と多様性の保持機構の解明に向けた研究を行ってきました。実際，指導教員であった宮下直彦博士の指導のもとで2003年までに発表した11編の論文はシロイヌナズナ属植物の自然集団中の変異調査の先駆けとなったものです。これらの総引用数は573に達します（Google Scholar 調べ）。

京都大学で学位取得後は，国立遺伝学研究所，大阪大学，エジンバラ大学，そして再び国立遺伝学研究所と国内外の研究機関で博士研究員として，常に論文を発表してきました。当時，私の所属した国立遺伝学研究所に勧誘したときには，1年という短い滞在期間で，まったくの素人であったショジョウバエを使って論文を発表しました。エジンバラ大学では理論，かつ実験研究者でもある Charlesworth 博士夫妻のもとで研鑽に努めました。結果，実験研究者の立場から理論をより有効に活用するための技術を身につけ，実践できるようになりました。

2007年に私の研究室に再び加わった時には，全く自由に，植物を材料とした研究を続けてもらいました。エジンバラ大学においてインプリンティング研究に関わったことから，エピジェネティクス研究を精力的に行っていた角谷徹仁博士の研究室との共同研究を開始し，現在まで続いています。そこから河邊さんが京都大学時代から興味を持っていたトランスポゾンとセントロメアの構造進化への研究と結びついていきます。

2010年，京都産業大学で研究室を主宰することになりました。これまで多くの指導者や共同研究者に恵まれてきましたが，今後はラボヘッドとして研究を発展させるだけでなく，優秀な遺伝学研究者を育てるという教育面での貢献も期待されています。2013年，2014年と責任著者として河邊研究室から論文が発表されていて，今後の発展への期待も高まります。

こうして河邊さんは歪みなく調査，観察したものを記載することからキャリアをスタートし，理論，そして仮説検証型実験と幅広いアプローチを身につけてきました。集団遺伝学の新たな可能性を拓いてくれると期待しています。

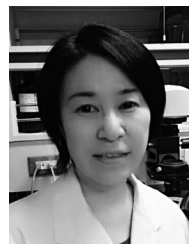
また，交友関係も広く，共同研究者だけでなく多くの研究者，特に若手研究者との交流を大切にしています。実際，遺伝学会の第83回年会において，北海道大学，九州大学の若手研究者とともに「転移因子と宿主の生存戦略」というワークショップを企画しています。このように河邊さんは，これからの世代を牽引する有為な人材です。

河邊さんは，これまでに日本遺伝学会の奨励賞を受賞するに十分に値する成果をあげています。受賞を契機にさらに躍進が期待できる人材と確信し，候補者として推薦する次第です。



2015年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

推薦者：池村 淑道（長浜バイオ大学 客員教授）
 受賞候補者：大野みずき（九州大学医学研究院 助教）



・略歴

1987年 東京理科大学理学部第二部化学科卒業
 1987～1990年 国立小児病院小児医療研究センター先天異常研究部 無給研究員
 1990～1991年 米国サウスカロライナ大学医学部産婦人科学細胞遺伝学研究室／
 リッチランドメモリアル病院 職員
 1995～1996年 国立遺伝学研究所進化遺伝研究部門 研究補助員
 1996～2000年 九州大学大学院医学系研究科分子生命科学系専攻博士課程 大学院生
 2000～2001年 九州大学生体防御医学研究所生化学部門 科学技術事業団（CREST）技術員
 2001～2003年 九州大学生体防御医学研究所個体機能制御学部門脳機能制御学分野
 科学技術振興事業団（CREST）技術員
 2003～2008年 九州大学生体防御医学研究所個体機能制御学部門脳機能制御学分野 学術研究員
 2008年～現在 九州大学医学研究院基礎放射線医学分野 助教
 2001年 理学博士取得 九州大学 第1546号

・遺伝学会における活動歴

2006年に一般会員として入会。現在までに第82回を除き全ての年会にて演題発表を行い、4回BP賞を受賞している。2006年BP賞（ヒトゲノムに及ぼす8-オキシグアニンの影響）、2007年BP賞（酸化塩基、8-オキシグアニンのゲノム蓄積は染色体組換えを促進する）、2011年BP賞（8-oxoguanineはDNA鎖切断を誘発することで減数分裂期の相同染色体組換え頻度を上昇させる）、2013年BP賞（酸化DNA損傷に起因するde novo germline mutationの解析）。2回のワークショップを主催している。

2011～2012年に評議員（九州地区）を務め、2012年福岡大会にてプログラム委員を務める。

・研究題目：（和文）酸化塩基 8-オキシグアニンはほ乳動物におけるゲノム多様性の原因である （英文）Oxidized base, 8-oxoguanine causes genome diversity in mammals

・推薦理由

大野みずき会員を日本遺伝学会の奨励賞の候補者として推薦致します。大野会員は大学卒業後に8年間、国立小児病院を含む病院等で染色体検査の業務に携わり、そこで観察するヒト染色体の多様性や不思議さを知り、また病院の枠を超えた染色体検査に携わるメンバーとの技術交流を通じて、新技術開発の重要性を実感したとの事です。実務を通じて抱いた数々の疑問を自身で解明したいとの強い意欲を持ち、研究者への道を目指し、当時は国立遺伝学研究所に所属していた私の研究室で、研究補助員となりました。研究補助員採用に当たっての面接等で、大野さんのこれらの高い意欲を知り、期待する気持ちと同時に、家庭を持つ女性が通常よりも遅れて研究者を目指すことの困難さも予想し、研究意欲の持続に不安を感じた記憶もあります。しかしながら、この不安は全く当たらず、家庭と研究を両立させながら、独自の技術開発を精力的に進め、染色体に関する光学顕微鏡と分子レベルの性質を関連付ける、筆頭著者の論文を発表しました。実務体験から生まれた疑問解明への意欲は更に高まったようで、大学院進学への道を選択しました。

当時、九州大学では、博士前期課程を経なくても研究歴がある志願者へは、後期課程の受験を認める制度を開始しており、大野会員はこの制度で九州大学の博士後期課程へ進学し、育児をしながら研究を続け、博士号を取得し、博士号取得後も九州大学の医学部において、博士研究員ならびに助教等として、哺乳動物の突然変異、特に酸化塩基 8-オキシグアニンの関与についての研究を中心に、世界を先導する研究に携わっております。現在までに、5報の筆頭著者の論文を含む20報の論文を発表してきました。

代表的な成果として、ヒトゲノムにおける8-oxoGのゲノム多様性への関与を知る目的で、ゲノム上の8-oxoGの定量的な検出法と可視化の新技術を確立しました。染色体上の8-oxoGの分布マップを作成し、様々なゲノム情報と比較検討し、8-oxoGが局在しているゲノム領域では減数分裂期の組換えと一塩基多型の頻度が高いことを明らかにしました。ゲノム上に存在する8-oxoGがヒトゲノムの多様性を生み出す原動力になっている可能性を示した成果です（Genome Research. 2006）。ヒトゲノムにおける8-oxoGの分布について網羅的に解析しており、突然変異の発生に重要な貢献をする成果として Cold Spring Harbor Press から Press Release され、国内外の多くの新聞や学術雑誌、Web ページで取り上げられました。更に、8-oxoGの3種類の修復酵素を欠損したマウス系統を樹立し、8世代維持を行うなかで、高頻度の自然発がんに加えて、遺伝性の多様な先天性異常の発生頻度が著しく上昇することを見出しています。理化学研究所の権藤洋一会員と協力して、マウス転写領域を広くカバーするエクソーム解析を行い、生殖系列の突然変異発生率が野生型マウスの約18倍に上昇していることを明らかにしました。ゲノムに蓄積した8-oxoGが生殖細胞系列の自然突然変異の原因となり、これが遺伝病やゲノム多様性を引き起こすことを実験的に明らかにしており、Scientific Reports (2014) 誌に発表され、国内外の新聞や Web ページでも紹介されました。私もこの共同研究に参加しております。

約10年の実務経験の後に大学院へ進学し、子育てや家庭と研究とを両立させて、先端的な研究を続けていますが、長い在职経験や育児等は、我が国で安定した研究職を得る上では大きな障害となっているのが現状です。遺伝学のように社会的影響の大きい先端科学分野においては、多様な経歴を持つ研究者の存在は、社会との接点や社会へ向けての情報発信において重要となります。国立小児病院等の医師や検査技師や看護師と一緒に業務に携わった大野会員のような経歴を持つ女性研究者が、実務を通じて得た遺伝学への研究意欲を持続させて、遺伝学分野で先端的な研究を行い、加えて学会活動においても活躍することの意義は大きいと考え、奨励賞へ推薦する次第です。大野会員のこれからの更なる活躍に期待すると同時に、遺伝学を目指す女性研究者や、多様な経歴を持つ等の理由で研究者としてのスタート時期が遅れている研究者にも激励となり、我が国の遺伝学の発展に貢献する意味も大きいと考えることも、奨励賞に推薦をする理由です。

◆ 会 員 異 動 ◆

新入会・再入会

宅 野 将 平	240-0193	神奈川県三浦郡葉山町 総合研究大学院大学
佐々木 剛	243-0034	神奈川県厚木市船子1737 東京農業大学農学部野生動物学研究室
尾 間 由佳子	981-8555	仙台市青葉区堤通雨宮町1-1 東北大学 大学院農学研究科 分子生物科学研究室
大 学 保 一	980-8577	宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1 東北大学 学際科学フロンティア研究所 新領域創成研究部
市 川 里 紗	192-0397	東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京 大学院 理工学研究科生命科学専攻 進化遺伝学研究室
矢 野 大 和	108-8639	東京都港区白金台4-6-1 東京大学新領域創成科学研究科
杳 名 伸 介	236-0027	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学国際総合科学部杳名研究室
Yang Ming		No. 135, Xingang Xi Road, Guangzhou, 510275, P. R. China SUN YAT-SEN UNIVERSITY
白 澤 健 太	292-0818	千葉県木更津市かずさ鎌足2-6-7 かずさ DNA 研究所 先端研究部 植物ゲノム・遺伝学研究室
山 口 勝 己	226-8501	神奈川県横浜市緑区長津田町4259-B-21 東京工業大学大学院 生命理工学研究科 生体システム専攻 梶川研究室
梶 川 正 樹	226-8501	神奈川県横浜市長津田町4249-B15 東京工業大学・大学院生命理工学研究科・生体システム専攻・ 梶川研
山 崎 晃	606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科 環境応答遺伝子科学研究室
西 巻 拓 真	278-8510	千葉県野田市山崎2641 東京理科大学 理工学部 情報科学科 遺伝情報研究室
玉 川 克 典	980-8578	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学・生命科学研究科・生物多様性進化分野・河田研究室
DHARMAYANTHI ANIK BUDHI		Shonan Village, Hayama, Kanagawa 240-0193 Japan DEPARTMENT OF EVOLUTIONARY STUDIES OF BIOSYSTEM SOKENDAI (THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES
崎 山 友香里	812-8582	福岡市東区馬出3-1-1 九州大学大学院薬学府分子生物薬学分野
天 野 孝 紀	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所・哺乳動物遺伝研究室
Suntronpong Aorarat	484-8506	愛知県犬山市官林41-2 京都大学 霊長類研究所
戊 亥 海	812-8582	福岡県福岡市東区馬出3-1-1 九州大学 システム生命科学府 情報生物学分野
奥 村 和 弘	260-8717	千葉県千葉市中央区仁戸名町666-2 千葉県がんセンター研究所・実験動物研究室
金 鍾 明	230-0045	神奈川県横浜市鶴見区末広町1-7-22 理化学研究所 環境資源科学研究センター 植物ゲノム発現研究チーム
岩 崎 理 紗	240-0193	神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村） 総合研究大学院大学先導科学研究科生命共生体進化学専攻 颯田研究室

村 上 日 向	980-8577	宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1 東北大学
真 鍋 勇一郎	565-0871	大阪府吹田市山田丘2-1 大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻 量子エネルギー工学講座
蘇 傑	560-0043	大阪府豊中市待兼山町1-1 大阪大学 理学研究科 分子遺伝学研究室
琴 梨 世	606-8502	京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院 農学研究科 育種学研究室
浦 大 樹	305-0074	茨城県つくば市高野台3-1-1 理化学研究所バイオリソースセンター 疾患ゲノム
岡 村 大 治	631-8505	奈良県奈良市中町3327-204 近畿大学 農学部 バイオサイエンス学科 動物分子遺伝学研究室

(連絡先自宅のため不掲載)

津久井隆裕, 石毛大輔, Jo Minji, 金澤美秋, 野沢絃佑, 上野通宗, 伊沢朋子, 佐藤貴皓, 吉田早希, 清水葉子, 河村瑳友, 中村遥奈, 森口夏季, 西田洋一, 宮原亮太, 中塚三保子, 脇坂啓子, 金 晶, 大里直樹, 塩入拓馬, 按田瑞恵, 松本光司, 五十嵐諒, 上 幸代, 木村亮介

退 会

藪谷 勤, 金野柳一, 熊谷千鶴子, 三宮正信, 岸本直己, 桂木雄也, 中辻憲夫, 森川利信, 塩崎一裕, 依田幸司, 辻 真矢, 生島隆冶, 米崎哲朗, 刀禰高広, 上田奈央子

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 84	No. 7-11	(2015)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 45	No. 3-5	(2015)

日本遺伝学会会則

- 第1条 本会は日本遺伝学会と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務所を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
- 第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと。
- 第5条 本会会員は普通会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したとき、あるいは定年退職して常勤職でなくなったことを申し出たときは6,000円）を、機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を前納すること。会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする。
- 第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員にすることができる。
本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第7条 本会は隔月1回遺伝学雑誌を発行して会員に配布する。
- 第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員の選挙および他の議事を行い講演会では普通会員および名誉会員の研究発表をする。
大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第9条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第10条 本会は会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議員若干名をおく。
1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
2) 会長は、評議員が全普通会員の中から選出した複数の候補者から普通会員による直接選挙によって選出される。
3) 評議員は、普通会員による直接選挙で選出される。
4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
6) 会長は評議員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議員会に出席するものとする。
7) 評議員会は会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。
8) 会長ならびに幹事により幹事会を構成し、会長がこれを代表する。
9) 幹事会は、学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に、会務を執行する。
10) 会計監査は、学会の会計を監査する。
- 第11条 役員および評議員の任期は2カ年とする。会長および評議員は連続三選はできない。
- 第12条 本会の事務年度は暦年による。
- 付則 平成7年10月13日に第5条を改正し、平成8年1月1日から施行する。
- 付則 平成21年9月17日に第5条を改正し、平成22年1月1日から施行する。

Genes & Genetic Systems 第90巻4号（付録） 2015年12月21日発行 非売品 発行者 遠藤 隆 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800 発行所 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内	学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会 http://gsj3.jp (電話・FAX 055-981-6736) (振替口座・00110-7-183404) 加入者名・日本遺伝学会 国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えます。
---	---